

伊犁への  
別路湯鎮臺の  
優遇回部王と  
俸祿

風土病は瘧咽喉病等夏期に多し。

當地より伊犁に通ずる山道は、即ち東方一日程にある、札木臺を分岐點とするものにして、既に詳記せし如く、天山の氷嶺、海拔一萬八千尺を過り、氷巖累々たる大氷河の横はる有り。一步を過たば、人馬共に萬尋の深谷に陥り復た救ふに由なし。之を難路と謂ふも未だ盡さず、險路と謂ふも尙ほ盡ざる有るを覺ゆ。

予の當地に入るや、懇切なる諸官憲の待遇を受けたり。殊に鎮臺湯詠山氏は道臺潘震、知府方鋆以下、知縣、遊擊、電報局長等を會し、予の爲めに盛宴を張り、射擊の餘興等を催し、主客胸襟を開いて歡を罄くせり。回城視察の際、予は知縣と共に、回部王の別墅に憩ひ、王と會見せり。回部王實は貝勒なるも、郡王脚を有す。知縣の言に依れば、王の俸祿は、一年銀八百兩、倉糧小麥一百二十八石なりと。

此地、漢に在りては温宿國、唐代は跋祿迦國、元代は阿克蘇或は阿速と稱せり。

附 烏什

烏什は東經七十七度五十二分、北緯四十一度十分、省會を距る四百四十五里に在り。此の地又烏什吐魯番と稱し、舊と回酋の居城にして、南路中繁盛の地、人家